

事業協働機関の紹介



和歌山大学
COC+推進室(紀の国大学事務局)
TEL.073-457-7137
TEL.073-457-7147
cocedu@center.wakayama-u.ac.jp



大阪市立大学
プロジェクトマネジメントオフィス
TEL.06-6605-2068
pmo-coc@ado.osaka-cu.ac.jp



大阪府立大学
地域連携室COC事務局
TEL.072-254-8309
cocinfo@ml.osakafu-u.ac.jp



摂南大学
教務部教務課
TEL.072-839-9106
SETSUNAN.Kyomu@joshu.ac.jp



和歌山工業高等専門学校
総務課
TEL.0738-29-8299
s-soumu@wakayama-nct.ac.jp



和歌山信愛女子短期大学
きょう育の和センター
TEL.073-479-3330
kouhou@shinai-u.ac.jp

和歌山県(窓口) TEL.073-441-2108

和歌山県経営者協会 TEL.073-431-7376

紀陽銀行 TEL.0734-426-7126

和歌山県中小企業団体中央会 TEL.073-431-0832

協力校の紹介

和歌山県立医科大学
TEL.073-441-0801

近畿大学(生物理工学部)
TEL.0736-77-3888

関西大学
TEL.06-6368-1121

紀の国大学

地域・企業・自治体の皆さまへ

2016年4月にスタートする新事業
紀の国大学への
ご参加・ご協力をお願い

“わかやま”ならではの多様な暮らしで
『未来』をつくる



紀の国大学 への
ご参加・ご協力をお待ちしています

地域力を結集し、「わかやま」で「わかもの」を育てたい
文学、教育学、経済学、工学、理学…、既存の教育・研究の枠組みにとらわれず、和歌山の未来を切り拓く新たな知見を得るために、学生たちが「わかやま」という広いキャンパスへと飛び出します。

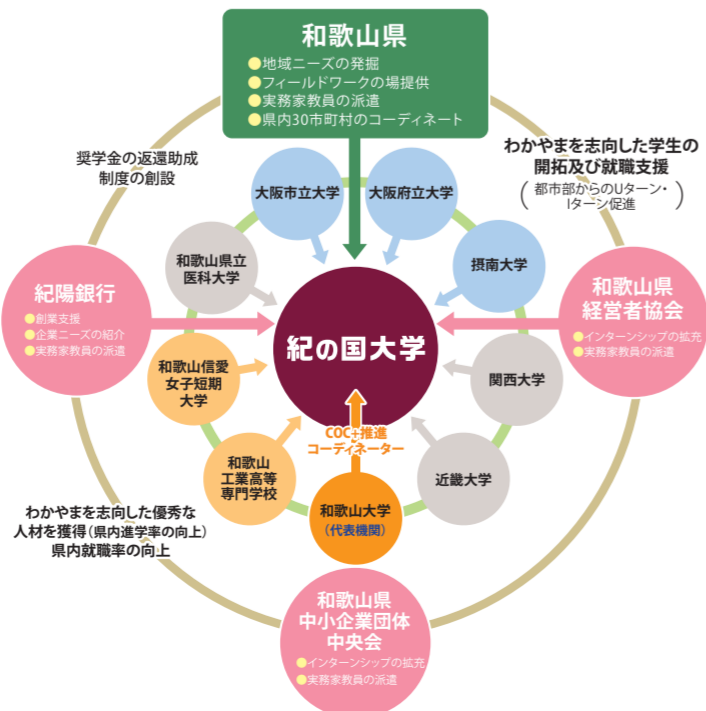
**はらかな「わかやま」を想像し、
ときめく「わかやま」を創造する**

紀の国大学参加各校では、学生に「わかやま学」を共通の科目とし、和歌山の歴史・文化・風土について学びます。また、和歌山県の地方創生のテーマとなる様々な課題を現場の事例に即して考えるための基礎知識を修得します。それらをふまえた学生達が、実際に地域へと飛び込んでいき、地域の皆さんと出会い、地域の「いま」を知り、直面している課題を発掘します。学生たちは皆さんと課題を共有しながら、大学と地域がそれぞれもっている知を結びつけた新たな知を提供して、課題解決を模索します。

「わかもの」を「わかやま」へ

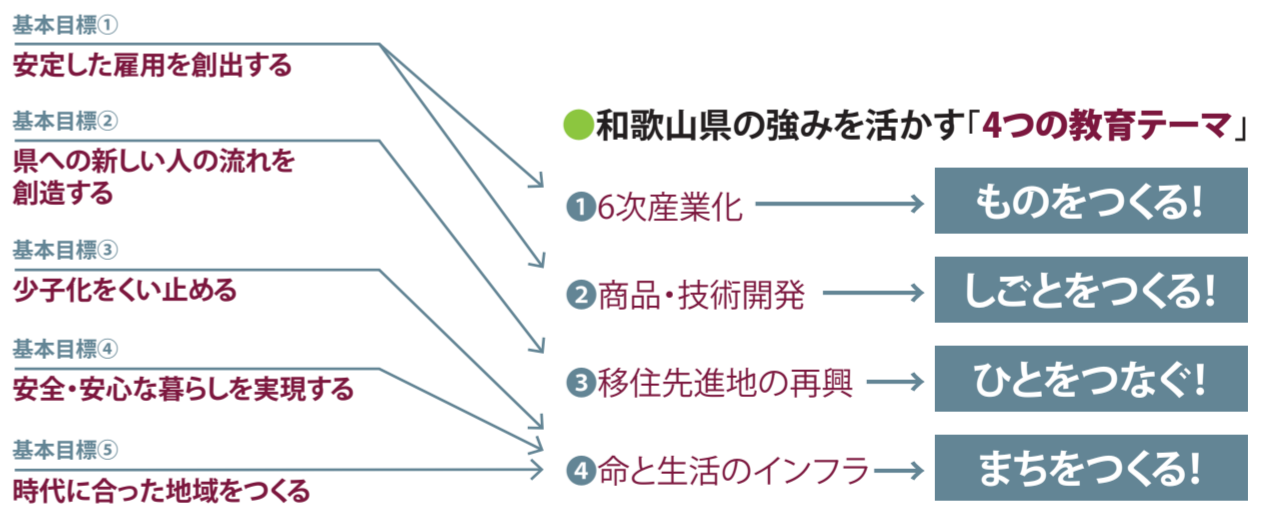
紀の国大学では、各地から集まった学生達が地元の自治体・企業・団体の皆さんと出会い、課題を分かち、ともに考え、ともに「はたらく」ことで、地域と皆さんを元気にしていきます。

大学、地方公共団体、企業等の連携による教育



地方創生推進事業「紀の国大学」の目標

●和歌山県総合戦略の「5つの基本目標」(和歌山県まち・ひと・しごと創生総合戦略)



●アウトカム(目標指標)「3つの目標」

[短期] 地元就職増	[中短期] 雇用創出増	[中期] 定住人口増
------------	-------------	------------

地(知)の拠点大学による
地方創生推進事業
「紀の国大学」の目標

区分	平成26年度	平成31年度
事業協働地域(和歌山県)へのインターンシップ参加 (うち和歌山大学)	158人 68人	400人 106人
事業協働地域(和歌山県)就職率 (うち和歌山大学)	8% 20%	18% 30%
事業協働機関雇用創出数	0人	10人

紀の国大学協議会会長あいさつ



紀の国大学は、文部科学省の推進する「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の認定を受け、和歌山県の地域課題解決を推進する共同事業体です。「地元の人々・企業・自治体を元気にする人材」「地元で活躍できる人材」を育成すべく、県下全域をキャンパスとして、学生教育を展開して参ります。皆様方には、これまで培ってこられた知見を、授業の場で学生達にご提供いただければと思います。また、学生達を現場に受け入れていただき、より実践的な知見をご教授いただきたくお願い申し上げます。紀の国大学はこれから地域と学生が互いに助け合いながら、わかやまの未来を切り開いていく事業です。ご参加、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

「紀の国大学」
参加・協力をお願い

- 地域の皆さんへ(現場での実践的教育的受け入れ、セミナー講師派遣)
- 企業の皆さんへ(インターンシップの受け入れ、セミナー講師派遣)
- 自治体の皆さんへ(まちづくり参画の受け入れ、セミナー講師派遣)

教育テーマ① ★

実践的教育プログラム 卒業研究・生活文化ゼミ

担当者	和歌山信愛女子短期大学 全教員
活動場所	和歌山信愛女子短期大学 「ふれ愛ルーム・木のおうち」
拠点住所	和歌山市相坂702-2

学内にある、和歌山市と連携した子育て支援施設「ふれ愛ルーム木のおうち」をフィールドに、保育・食育プログラムの計画・実践・保護者との交流、親子への聞き取り調査等を通じて、地域の課題を理解し、リーダーシップや協調性、子育て・子育てを支援できる実践力育成を目指します。

教育テーマ②③④ ★

学生との協働による継続的な 棚田保全活動体制の構築 観光学部地域インターンシップ

担当者	和歌山大学観光学部 大浦由美
活動場所	有田川町
拠点住所	有田川町沼地区

ふるさとの原風景として、また環境保全や文化・歴史遺産として、その価値が見直される棚田の保全活動およびその基盤となる地元集落の活性化を継続的に支援しうる体制の構築を、地域住民と学生との協働により目指します。地域インターンシッププログラム(LIP)のひとつです。

教育テーマ① ★

「インターンシップ」 6次産業化推進プロジェクト

担当者	和歌山大学 協働教育センター 木村亮介
活動場所	有限会社柑香園 (観音山フルーツガーデン)
拠点住所	紀の川市下丹生谷557

先進的に6次産業化している農業法人にて、毎年夏休み等に10~20日間程度の実践型インターンシップを実施。商品開発、販路開拓、観光拠点整備、民泊事業開発、イベント企画・実施、新店舗企画などを行いました。

教育テーマ① ★★

「地域協働演習」 「教養の森」カリキュラム

担当者	和歌山大学 協働教育センター 木村亮介
活動場所	和歌山大学 橋本市・九度山町
拠点住所	橋本市役所 橋本市東家1丁目1-1 紀州九度山 六文銭「招福庵」 伊都郡九度山町九度山1607-3

全学部対象のキャリア教育の一環として、地域課題の解決提案に取り組みました。橋本市「食を通じた地域ブランドの構築」、九度山町「大河ドラマを活かす商品企画」それぞれのテーマに対し現地調査等を踏まえて企画提案を行いました。

教育テーマ② ★

企業実践講座

担当者	和歌山工業高等専門学校 物質工学科
活動場所	和歌山工業高等専門学校 (御坊市)
拠点住所	御坊市名田町野島77

実際の企業活動の概要(企業を取り巻く環境や制度、企業を維持するための種々の施策や活動、企業の状況を表すデータの読み方等)、実例をもとに学習します。



紀の国大学

和歌山県の強みを活かす4つの教育テーマ

- 1 6次産業化 → **ものをつくる!**
- 2 商品・技術開発 → **しごとをつくる!**
- 3 移住先進地の再興 → **ひとをつなぐ!**
- 4 命と生活のインフラ → **まちをつくる!**

教育テーマ③④ ★

摂南大学PBLプロジェクト 「すさみ町における過疎地域 活性化支援プロジェクト」

担当者	摂南大学外国語学部教授 浅野英一
活動場所	西牟婁郡すさみ町 (旧佐本小学校)
拠点住所	西牟婁郡 すさみ町佐本中92番地

すさみ町を活性化するために、学生が調査活動や実証活動を行っています。すさみ町における伝統的な祭りの復活、イベントの開催、独居老人宅への「お宅訪問」、廃校となった小学校での青少年育成キャンプなどを実施しています。

教育テーマ④ ★

「域学連携」地域活力創出モデル実証事業 「子どもまち 学習ワークショップ」

担当者	大阪立大学工学研究科/佐久間康富 都市研究プラザ/水内俊雄
活動場所	新宮市
拠点住所	新宮市

学生と子どもたちが地域に出向き、地域巡検を行うことを通じ、歴史と地域の系譜を学習します。仲之町商店街振興組合、新宮市との連携で、ワークショップ、成果発表表を行い、「地域力」を高めることを企画しました。子どもたちが自ら大きな地図に上ることによって新宮を体感し再発見する「ガリバーマップ」を作成し、地域へ発信しました。

教育テーマ③④ ★

地域実践演習(GATSUNIII) 紀伊半島における地域再興、ニューツーリズムの学修:地域活性・観光・災害復興

担当者	大阪立大学 都市研究プラザ 水内俊雄
活動場所	新宮市
拠点住所	新宮市(丹鶴、仲之町、駅前 神倉神社、高田地区、佐野地区)

新宮が抱える問題や地域が持つ可能性について、学生が主体的に、地域(現場)へ出て調査・学習し、選ばれた5つのテーマのうち①地域活性、②観光、③災害復興に関して、短時間で成果物(リーフレット、パンフレット)をつくり上げ地域へ還元しました。これらの成果物は、すべて地元で展示・配布され、今でも活用されています。

教育テーマ③ ★

新宮市における 生活困窮者自立支援法 への対応

担当者	大阪立大学 地域連携研究機構地域 福祉研究センター 中山 徹(現、地域保健 学域教育福祉学類 教授)
活動場所	新宮市
拠点住所	新宮市内

従来から高齢者福祉の調査研究で対象地区としていた新宮市で生活困窮者自立支援法への対応を調査し、大阪市北区での調査と比較し、平成27年度から実施する地域実践演習の参考としました。

教育テーマ③ ★★☆☆★

QOLプロモーション演習

担当者	大阪立大学 生活科学部 西川 慎一
活動場所	海南市、古座川町、紀の川市、 有田川町、新宮市の農場など
拠点住所	海南市、古座川町、紀の川市、 有田川町、新宮市

食品・居住・福祉の3つの分野で複合的な教育資源を有する生活科学部の学生が、生活者のQOL(生活の質)を高めるため、地域ニーズの把握を行い、地域とのパートナーシップのもと問題解決にあたる体験型実践的演習を継続的に実施しています。タマネギ、ニンニクの収穫、サツマイモの植え付け、自然農法による酒米づくりなどの履修活動を通じて、地域に密着し、地域活性化を目指します。